



古市 公威  
第2代所長



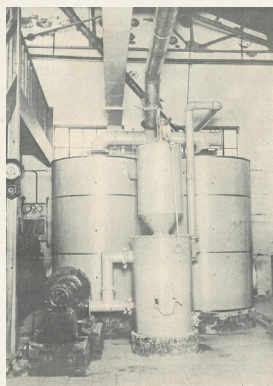
菊池 大麓  
初代所長



ひろやす  
伏見宮博恭 王  
第2代総裁



さだなる  
伏見宮貞愛 親王  
初代総裁



アドソールを用いた除湿装置



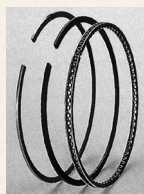
渋沢 栄一



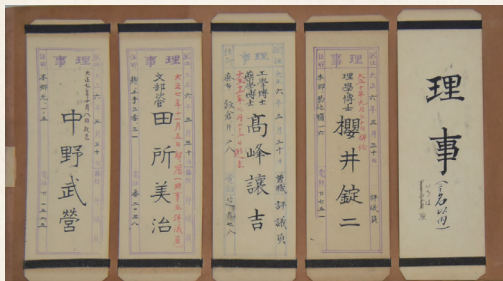
高峰 讓吉



アルマイト  
弁当箱



ピストンリング



名簿



理研ビタミン  
(1924年)

1917(大正6)年3月20日、理化学研究所は、皇室からの御下賜金、政府からの補助金、民間からの寄付金をもとに、わが国の産業の発展に資することを目的に設立された。

財団時代は、理論物理学、実験物理学に邁進。  
 理研社長就任後は、戦後復興、日本の科学力存続と会社運営に奔走した。



仁科 芳雄  
 第4代所長

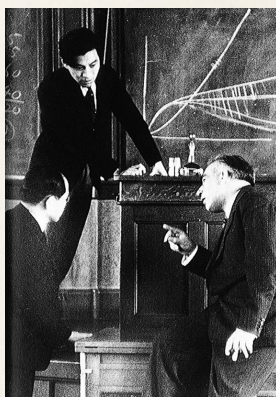
「物理が化学をやっても化学が物理をやってもいいところにかまいません」。  
 「科学者の自由な楽園」と言われる研究環境を醸成した。



大河内 正敏  
 第3代所長



理研コンツェルン月報  
 (1937年創刊)



N.ボーア博士を迎えて(1937年)  
 左より、仁科、菊池正士、ボーア

主任研究員制度のもと、基礎研究に取り組み、日本の科学技術発展の基礎を築いた。そして、研究成果の実用化にも力を注ぎ、製品を多く開発。やがて理研コンツェルンと呼ばれる企業集団を結成し、研究費を自ら稼ぎ出した。

**理化学研究所  
 創立二十五周年記念講演會**  
 (慈善奉還會)

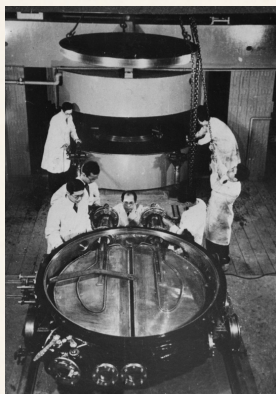
日時・昭和17年3月20日(金曜日)  
 会場・軍人會館 市電丸の内下車

要の部	自午後1時半	至同5時
1. 開會の辭	工學博士 大河内正敏	
2. 學の最近の動向	理學博士 中野宇吉郎	
3. 視覚と物性	工學博士 眞島正志	
4. 超伝導の話	工學博士 木下正敏	
5. 乾電池石炭の進歩	理學博士 本多光太郎	
映畫 科學の歴史		3巻
映畫 機 關 誌		2巻
宴の部	自午後6時	至同9時
6. 精実業及びその動向	理學博士 飯塚 重安	
7. 分子の構造とその變化	理學博士 片山 正美	
8. 有機化學の最近と色業化學	理學博士 眞島 利行	
9. 生化學とその應用	理學博士 鈴木南太郎	
映畫 科學の歴史		3巻
映畫 機 關 誌		2巻

各講演時間約30分、演員の紹介人員制約は致しません。

**財団法人 理化学研究所**  
 東京都本郷区新大塚 3-1-1 理研本館  
 電話 大塚(内線) 311-2178 号  
 1482-1487 号

理研創立25周年記念講演會(1942年)  
 東京(3月20日)、大阪(5月14日)



加速器科学を創始  
 理研大サイクロトロン(1943年完成)



村山 威士  
第2次社長、  
第3次初代社長、  
第2代会長



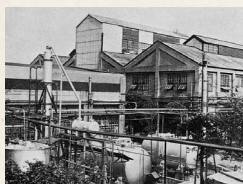
亀山 直人  
第2次会長、  
第3次初代会長



阪谷 希一  
第1次第2代社長



仁科 芳雄  
第1次科研初代社長



ストレプトマイシン工場  
(1950年)

戦後の栄養不足などによる結核患者を救済



科研の株券



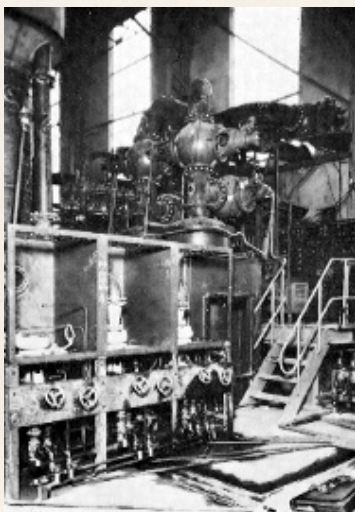
佐藤 正典  
第3次第2代社長

財団法人研は戦後、解散を余儀なくされ、1948年3月、株式会社科学研究所(科研)として再スタートを切った。  
「民間企業となった科研は、財政難にあえきながらも、基礎研究の灯を消すことなく苦闘し続け、苦難の時代を生き抜いた。



ペニシリン(1949年)

生化学、物理や工作技術を活かし、科研一丸となって量産体制を確立



科研式低圧酸素製造装置  
大量に酸素を使う製鉄に貢献

# 特殊法人理化学研究所



福井 伸二  
第4代理事長



星野 敏雄  
第3代理事長



赤堀 四郎  
第2代理事長

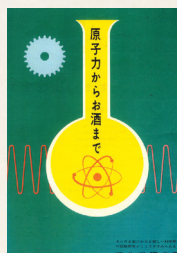
実業家としての再興実績を買われ理事長に就任。  
新天地和光への道を開いた。



長岡 治男  
初代理事長



大和(和光)研究所開所(1967年)



理研パンフレット  
(1959年)

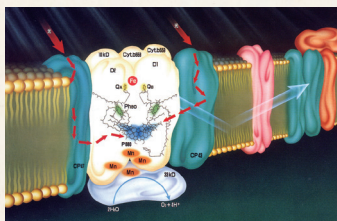
幅広い研究を「原子力からお酒まで」と表現



農業用抗生物質ポリオキシンの研究  
科研製薬が製品化



モニュメント：160cmサイクロトロン



光合成科学研究  
理研初の本格的な国際研究協力

財政や経営に苦難していた科研は、1958年10月、政府出資金・補助金による特殊法人理化学研究所として再出発した。新時代の総合研究所としての研究環境を求めて、1967年、埼玉県和光市当時は大和町に移転した。



小林 俊一  
第6代理事長



有馬 朗人  
第7代理事長



小田 稔  
第6代理事長



宮島 龍興  
第5代理事長



国際フロンティア研究システム  
第1期研究成果報告会(1991年)



筑波キャンパス全景



アタック(1987年)

理研が開発したアルカリセルラーゼの特許技術を応用し、花王が洗濯洗剤を実用化。洗剤の少量化を実現。



VAAM(1995年)

理研がスズメバチ幼虫の分泌液の効能を発見し、明治がスポーツ飲料化。



SPring-8供用開始(1997年)



神戸研究所開設(2002年)



横浜研究所開設(2000年)

特殊法人理化学研究所の成熟への過程。研究システムの増強と研究分野の多様化、拡大と  
研究基盤設備の充実を図った。

# 独立行政法人理化学研究所



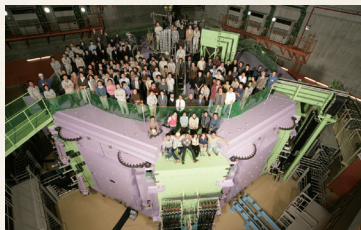
野依 良治  
独立行政法人理事長

## 野依イニシアチブ

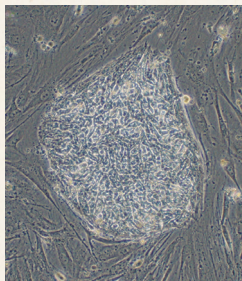
1. 見える理研
2. 科学技術史に輝き続ける理研
3. 研究者がやる気を出せる理研
4. 世の中の役に立つ理研
5. 文化に貢献する理研



計算科学研究機構開設(2010年)  
スーパーコンピュータ「京」  
共用開始(2012年)



超伝導リングサイクロトロン完成(2006年)



iPS細胞を用いた世界初の  
臨床研究を開始(2013年)



SACLA供用開始(2012年)



3回目の113番元素(Nh)合成に成功(2012年)

「二層の自主性、主体性を發揮できる」として独立行政法人に移行した理研は、国による中期目標を達成するために中期計画を策定。自らの責任で業務を遂行し、業務終了後は国による到達度評価を受ける仕組みとなった。



松本 紘  
国立研究開発法人  
初代理事長

### 科学力展開プラン

1. 研究開発成果を最大化する  
研究運営システムを  
開拓・モデル化
2. 至高の科学力で世界に  
先んじて新たな研究開発  
成果を創出
3. イノベーションを生み出す  
「科学技術ハブ」機能を形成
4. 国際頭脳循環の「極」を担う
5. 世界的研究リーダーを育成



革新知能統合研究センター開設(2016年4月)



113番元素が  
「nihonium(ニホニウム)」、  
「Nh」に決定(2016年11月)  
和光市が「ニホニウム通り」を  
整備



科学技術ハブ推進本部  
関西拠点設置(2016年11月)



数理創造プログラム開設(2016年11月)

国立研究開発法人に移行した理研は、中長期的な視点に立つて研究を遂行し、その成果を最大限確保することを使命とする研究機関の中核機関として新たなスタートを切った。

# 理化学研究所創立百周年

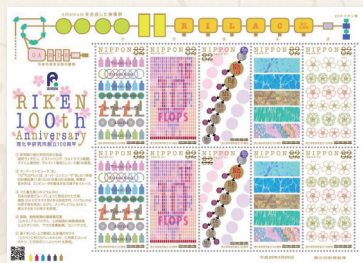
2017年4月26日、天皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、  
理化学研究所創立百周年記念式典が開催された。



百年展 (国立科学博物館)



百年タイムカプセルの設置・展示  
歴史的に価値ある資料を収集・保存し、後世に伝える。  
参加は企業と理研の各センター等。



特殊切手「理化学研究所創立100周年」  
2017年4月26日 発行 日本郵便